

認知症問題に理解

市民ら300人フォーラム

十和田

上十三医師会（石井淳夫会長）などは25日、十和田市民文化センタ

ーで「上十三もの忘れフォーラム」を開き、

約300人の市民らが

認知症治療や予防方法などについて理解を深

めた。

フォーラムでは、も

の忘れ外来開設から1

年半が経過した同市立

中央病院メンタルヘル

ス科の竹内淳子診療部

長と、認知症問題に積

極的に取り組む高松病

院（同市）の海老名恵

副院長が講演した。

会場からの質問に答

える形で行ったパネル

ディスカッションで

は、中央病院脳神経外

科の赤坂健一診療部長

が、認知症に似た症状

について説明。「言葉

が出にくかったりもの

忘れを実感した場合、

脳梗塞や脳の髄液の循

環が悪くなる水頭症な

どが考えられる。その

場合は治療で改善が見



パネルディスカッションで会場の質問に答えるパネリスト

「どの程度のもの忘れが認知症か」の問いに、竹内部長は「最近のニュースやきょうの目付が分からなくなっ

ていたら疑って」とアドバイス。

認知症予防について海老名副院長は「効果があるとされる方法は

さまざまあり見解が分かれている。適度に体を動かす運動療法から始めて」と語った。

（小橋徹）